

# 業務履歴と計算尺のお話

18期 荻野雄次

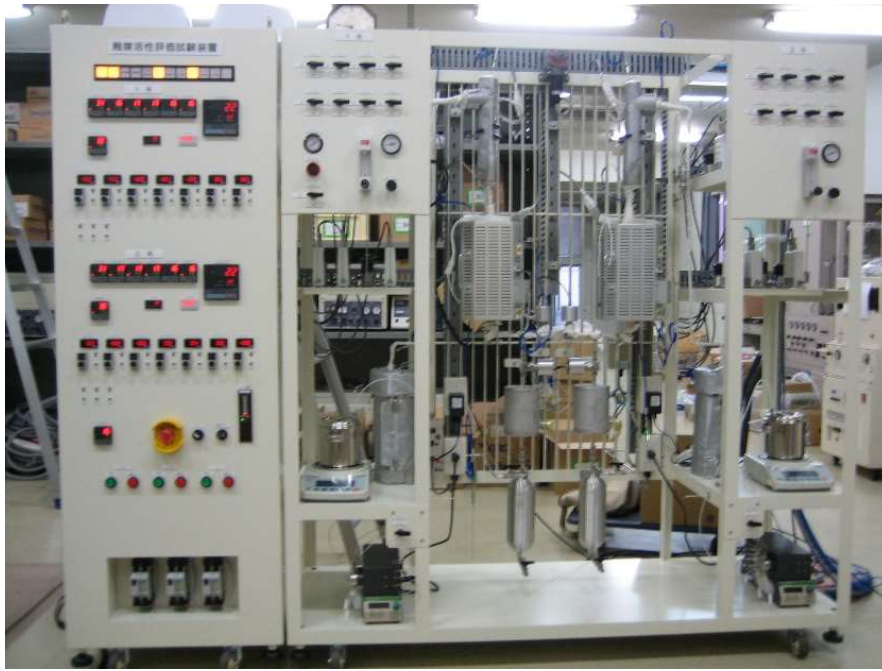
自己紹介、18期、精密機械工学科、愛知県出身、東京在住（中大杉並高が近い）の荻野です。

今年の5月から転勤になりまして埼玉の東松山（正確には滑川町）から御茶ノ水に移りました。往復100kmの自動車通勤から電車通勤になり、ラッシュに疲れています。会社はニコライ堂の近くにありません。現在建替え中で校舎になるようですが、以前の中央大学駿河台記念館も近くです。

私が高大に入学したときは、学生はすでに多摩校舎に移転済だったと思いますが、御茶ノ水には校舎と一部事務部門が残っており、閑散とした校舎に奨学金の手続きに行った記憶があります。また、入学した年は中大野球部が大学選手権に優勝した年で、準決、決勝どちらかは覚えていませんが対戦相手が東海大学（現巨人の原監督がサード）、早稲田大（現解説者で元阪神の岡田監督がサード）で2試合とも見に行きました。

ボート部に入ったおかげで校歌、応援歌はマスターしており応援にも十分参加できました。決勝の日にはボート部の新歓の日で、野球を見てから会場に行きました。若い世代の方はわからないと思いますが、学生服を着て会場までの要所で看板をもってOB（このころはOGはいなかった）たちを迎え、今は時効ですが未成年の我々はOBからしこたまお酒を飲まされ（飲ましていただき）、1人では帰れず先輩に送ってもらったか、先輩のところに泊めてもらったと思います。

話は変わりますが、私は会社員ですが、現在3社目です。1社目はいわゆる大手企業で設計をしていました。私の時、就職活動は非常に楽でした。精密機械だけだったとは思いますが指定校制の時代で、企業から学科に2、3名の枠が大学の就職部に来ており、企業に行きたい者は就職部の面談で希望先を決めていました。私がいた研究室は15名いましたが、1名が大学院（この年から大学院への推薦制度ができたと思います）、自分でやりたいことができる会社を探した者1名、自営1名、私を含め他の12名は大手企業に決まりました。就活をしている現役の方とはかなり違うと思いますが、アポ取りは企業へ就職部経由で連絡が行き、訪問日が決まり、1回目の訪問で小論文といきなり役員面接を行い後日内定の連絡がありました。他のところでは技術的な試験もあったようです。会社は愛知にありましたが、今は考えられないと思いますが前日のホテルの宿泊は会社負担でした。多分、就職協定で4年生の5月から企業との接触が解禁され、夏休み前には研究室の全員に内定が出ていたかと思います。1社目を2年ほどで退社し2社目は一部上場（今年から制度が変わりましたが）の子会社で化学関係の実験装置を作る会社に入り技術的な仕事につきました。15年ほど前に親会社が倒産（民事再生で現在もあります）し、今の会社を買収され社名はそのままで子会社に、10年前に3社目となる親会社になります親会社に吸収合併されました。



子会社、吸収合併などありましたが37年ほど同じ業界にいます。化学関係の実験装置の部門ですが、具体的には主に触媒関係、燃料電池関係、分離膜関係で、国、民間、大学などの研究、開発部門に納入しています。燃料電池は今でこそ車のミライ、家庭用のエネファームで一般の方でも知っていると思いますが、国内では30年以上前から研究されているところもありました。分離膜関係はまだ知っている方はあまりいないかと思いますが、温暖化ガスのCO<sub>2</sub>やエネルギーとして期待されるH<sub>2</sub>を他のガスと混ざっている状態から分離するもので現在は多方面で研究されています。おかげで化学、電気関係の勉強もすることとなりましたが、最先端であったり環境対策などの研究に関係でき世の中に役立っていると思います。営業もしていますが数字には苦しんでいます。

今いる御茶ノ水ですが80名（契約、パートも含めて）ぐらいの小企業なのに自社の土地、ビルです。

周りは高層ビルが多いのですが、古く6階建てです。



何故、小企業が都心の一等地に自社ビルがあるのか、それは昔、儲けていたからです。私より上の先輩でしたらわかる方がいると思いますが、計算尺を作っていた会社なのです。ほとんどの方が計算尺？となると思います。



今は技術計算をコンピューターで行なっていると思いますが、その前は関数電卓、その前が計算尺だったのです。写真を添付しておきますが、物差しみたいののですが、スライドさせてメモリを合わせると関数計算の答えがわかります。関数によって計算尺の種類が異なります。

古くはアポロ 13 号（古すぎる話ですが）が事故で地球帰還が困難な時に計算尺で軌道計算をしたと聞いています。最近ではジブリの映画で「風立ちぬ」でゼロ戦の設計で計算尺を計算しているシーンが出てきます（私は見ていないのですが）。この時はジブリから計算尺を貸してほしいという話があり、貸出したと聞いています。もともと計算尺はドイツで開発されましたが、いろいろあり弊社でも作る事になり最盛期は国内シェア 98%、世界シェア 80%と驚異的な数字を持っていました。そういうわけで昔は儲けてお茶の水に自社ビルがあります。

御茶ノ水オフィスには常駐が 5 人しかいません。1 フロア以外は貸し出しているからです。その 5 人のうちウクライナの方が 2 人います。1 人は戦争前からいましたがもう 1 人は戦争が始まってからで最初の人と大学が同じで、もともと日本へ留学する予定でしたが新型コロナウイルスで延びていたのが避難も兼ねて日本に来たそうです。2 人とも多分電話では外国の人とはわからないぐらい日本語を話します。会社では戦争の話はほとんどしません。

とりとめのない話でボート部の話がほとんどありませんでした。



最近是新歓、納会に出られていません。新型コロナウイルスの影響が少なくなったらまた出席したい  
と思います。

以上